

第6回 蕨市将来ビジョン審議会 会議概要

■日 時 令和5年10月20日（金） 午前10時00分～11時45分

■場 所 市庁舎4階・大会議室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹（会長）、坪井真（副会長）、前川やすえ、古川歩、岡田三喜男、
本田てい子、植田富美子、佐藤政美、上野寿一、智内兄助、長谷川浩司、
岡本和子、木田麗花、笹渕敏子、島村幸子

事務局：阿部泰洋（総務部長）、佐藤則之（総務部政策課長）、島田雅也（総務部政
策課主幹）、市川翔太（総務部政策課主査）、横山徹（株式会社コーエイリ
サーチ&コンサルティング）

■次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について（確認）
4. 議 題
 - （1）蕨市将来構想（素案）に対するパブリック・コメントの結果と寄せられた意見に
対する市の考え方について
 - （2）答申（案）の検討について
 - （3）その他
5. 閉 会

■内 容

【前回の会議概要について（確認）】

事務局から前回の会議概要について確認を行い、了承された。

【議題】

- （1）蕨市将来構想（素案）に対するパブリック・コメントの結果と寄せられた意見に
対する市の考え方について
事務局から、パブリック・コメント結果と意見に対する市の考え方についてにつ
いて説明した。

会 長： パブリック・コメント結果と意見に対する市の考え方についてについて説明があったが、ご意見・ご質問はあるか。

(意見・質問なし)

(2) 答申(案)の検討について

事務局から、答申(案)について説明した。

会 長： 次回は答申となり、その場での変更はできないため、この場で修正する文案などが決めきれないようであれば、会長一任ということをお願いしたいと思う。

<(1) 安全で安心して暮らせるまち>

委 員： 「自助・共助・公助」というのは、防災に限らず重要な考え方だと思う。「防災については」と限定する必要はないのではないか。

委 員： 地域福祉計画策定に向けた会議にも参加しているが、地域福祉計画では「互助」の考え方が大切とのことであったため、「互助」も入れたらどうか。

副会長： 「共助」、「互助」のそれぞれの定義であるが、省庁によって異なるのが現状である。例えば内閣府は、厚生労働省が言う「互助」のことを「共助」と表現している。蕨市の場合は、「互助」「共助」とも、住民の支え合い、助け合いを意味して使われているようだ。その点も踏まえ討する必要があると考える。

事務局： ご意見を踏まえると、「互助」は、安全安心の分野に限定した考え方ではないということであると思うので、「その他全体を通じて」に記載することも考えられる。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

○項目1つ目について、本文中の「防災については、」を削除する。

○「その他全体を通じて」に、新たに「・『自助・共助・公助』、更には『互助』の視点も含めた、地域のなかでの住民同士の支え合いによるまちづくりも重要である。」を追加する。

<(2) 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち>

委 員： 「子どもとメディアの関係は切り離せないため、『健やかメディア』の取組は依然として重要である」とあるが、「子どもの健康に及ぼす影響を考慮して」など「健やかメディア」を修飾する言葉を入れてはいかがか。

委 員： ここでいう健康については、体への影響だけでなく、心も含めた心身の健康という観点が重要だと思う。

委 員： 本来の意味合いのメディアリテラシーと、「健やかメディア」の前身の「ア

ウトメディア」の趣旨は異なると理解している。「アウトメディア」では、子どもに、メディアから一定の距離を置いてもらう方向であった。

事務局： 「健やかメディア宣言」を確認すると、サブタイトルとして「上手なメディアとの付き合い方」とある。このため「子どもとメディアの関係は切り離せないものであるが、『健やかメディア』などの上手なメディアとの付き合い方の取組は依然として重要である」とすることも考えられる。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

○項目3つ目について、「～切り離せないため、『健やかメディア』の取組は～」から「～切り離せないものであるが、『健やかメディア』などの上手なメディアとの付き合い方の取組は～」に修正する。

※会長及び事務局にて最終調整の上、以下のとおり修正を追加（「メディア」という言葉の意味を分かりやすくするため）。

○項目3つ目について、「～子どもとメディアの関係は～」から「～子どもと電子メディアの関係は～」に修正する。

< (3) みんなにათათაკ健康に生活できるまち >

副会長： 「公立病院の存在は大きな強みであるので、建替えとともに、患者の利便性の向上」とあるが、患者のご家族など患者さん以外の利便性も大切であるため、「患者の」という文言は削除してはどうか。

委員： 本文中に「健幸」とあるが、「健康」ではなく、あえてこの字を使っているのであれば、造語であるため、カギ括弧を付した方がよいのではないか。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

○項目3つ目について、「健幸」から「『健幸づくり』」に修正する。

○項目5つ目について、「患者を」削除する。

< (4) にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち >

委員： 「商店の継続的に経営できるような支援」とあるが、「商店が」が適切であるため、修正をお願いしたい。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

○項目2つ目について、「商店の」から「商店が」に修正する。

< (6) 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち >

会 長： 文章中に「ダイバーシティ」と「多様性」が並列して記載されている箇所があるが、意味が重複しているため、「多様性（ダイバーシティ）」としてはいかがか。

委 員： 「外国人への差別・偏見をなくし、多文化共生への取組」とあるが、多文化共生を進めていくためには、「相互理解を深める」ことが重要であることから、その点も踏まえた記載としたい。

委 員： 「外国人との相互理解を深めることで、差別・偏見をなくし、多文化共生への取組」としてはどうか。

会 長： 外国人の比率が10%とあるが、いつ時点の数値か。現在は11%近くに達しているとの声もある。

事務局： 10年前（約5%）の倍の値になっていることを表現しているが、正確な表現に改める。

副会長： 本文中「外国」とあるのは「外国人」の誤りであるため、修正をお願いする。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

○項目1つ目について、「～外国の人口は、現在10%と大きく増加している。外国人への差別・偏見を～」から「～外国人の人口は、現在10%超と大きく増加している。外国人との相互理解を深めることで、差別・偏見を～」に修正する（令和5年4月1日現在10.5%であったため、「10%超」とした）。

○項目2つ目について、「ダイバーシティや多様性」から「多様性（ダイバーシティ）」に修正する。

<その他全体を通じて>

委 員： 2つ目の項目について、「みんなで育てるまちづくりを進めていく必要がある」の前に「年齢や国籍などを問わず、」と入れたらどうか。

委 員： 3つ目の項目について、「弱者（子ども、子育て世代、高齢者、障害者）」とあるが、一括りに弱者と記載することは適切であるのか。

副会長： 記載するのではあれば「弱者」は「社会的弱者」とする方が適切かと思う。また、「弱者」とは、福祉の分野では「支援を必要とする人たち」と捉えられており、置換えることも考えられる。

委 員： 子育て世代が例示に含まれているが、子育て世代は弱者なのだろうか。

- 副会長： それぞれであろうが、「支援を必要とする人たち」ではあるだろう。
- 会 長： 「支援を必要とする人たち（子ども、子育て世代、高齢者、障害者など）」とすることでよろしいか。
- 委 員： 蕨市はベッドタウンで、昼間は市外の職場にいる人が多いという特色があったが、コロナ禍を経て、リモートワークの方も増えた印象だ。このような方々が自宅外で仕事をする場に乏しいのが現状であり、従来からの「生活都市」に加えて、働く場としての蕨市という視点も重要になってくる。本文中に「多様性に配慮したまちづくり」とあるが、今後はコロナ禍の影響によるライフスタイルの変化にも対応したまちづくりが必要と考えており、この点も踏まえた記載としてはどうか。
- 委 員： 行政の支援でコワーキングスペースをつくることなどは難しい面もあるため、事業者側の取組も重要であるだろう。
- 委 員： このご意見については、テーマ「（４）にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち」に関わりがあると考え。３つ目の項目に、「時代に合わせた」を追加し、「企業・事業者には時代に合わせた『働きやすさ』」としてどうか。
- 会 長： ライフスタイルの変化に対応するという点はいかがか。
- 委 員： その旨を記載してもいいのではないか。市内に長く滞在するようになるなど、確かにライフスタイルが変化しており、その中で、地域のことに関心を持って貰えればよいと考える。

※審議会での議論を踏まえ、以下のとおり修正する。

- 項目２つ目について、「年齢や国籍などを問わず、」を追加し、「～図り、年齢や国籍を問わず、みんなで育てる～」に修正する。
- 項目３つ目について、「弱者（子ども、子育て世代、高齢者、障害者）」から「支援を必要とする人たち（子ども、子育て世代、高齢者、障害者など）」に修正する。
- 「（４）にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち」の項目３つ目について、「時代に合わせた」を追加し、「～企業・事業者には時代に合わせた『働きやすさ』を求めていく～」に修正する。

※会長及び事務局にて最終調整の上、以下のとおり修正を追加（審議会で挙げられた意見を遺漏なく含めるため）。

- 項目４つ目として、新たに「・コロナ禍の影響による『ニューノーマル』への社会転換など、市民のライフスタイルの変化を踏まえたまちづくりも重要である。」を追加する。

(3) その他

事務局から、第7回審議会のスケジュール、市長への答申書の提出等について説明があった。

【閉会】